



水澤雪下ひとり雑誌

雪下

第二十八号

2022/11/02 発行

題字：高橋弘美

## ご挨拶

---

久々に雑誌を再開しようと思う。おかげさまでここしばらくぐうたらさせていただいたけれども、今月はぐうたらしていたあいだに書いたものをお見せすることにする。

正確には、今回お目にかける作品は、11月20日に行われる[文学フリマ東京35](#)というイベント用に本を出そうということで書いたもの。そんなつもりではなかったのだが、書き終わってみたら二百枚の作品になっていて、しかもなんだか自分の半生の棚卸しをしたような気がして、変な気分がしている。でもこういうものを一生に一本でも書けたら、その人の人生はもうそれでいいような気もする。これ以上を求められるかどうかは人によるので、自分で決められることではない。求められたら求められたでしようがないけれども。

長編なので、この雑誌の組版ではどうも読みにくいような気がして、B6判製本用の原稿を一部変更して、PDFにしてお届けすることにした。はじめて自分で本を印刷してもらうので、無事出来上がるかどうか、なんだかおっかないのである。では今月は短いですがこのへんで。